

令和3年度第2回苫小牧市スポーツ推進審議会結果報告書

【日時】 令和4年3月23日（水）18時～19時

【場所】 市役所9階議会大会議室

【出席】 ▽苫小牧市スポーツ推進審議会委員 10名（12名中）
本間会長、藤岡副会長、阿部委員、池田委員、小松委員、澤井委員
鈴木委員、中村（誠）委員、中村（峰）委員、山根委員

▼事務局（市）

総合政策部 : 木村部長

まちづくり推進室 : 柴田室長

スポーツ都市推進課 : 畠山課長 奥井主査、寛那見主査、植村主任主事、
荒谷主事、佐藤主事、脇坂主事、大村主事

~~~~~議事内容（審議経過・意見・質問等）~~~~~

- 1 開会（畠山課長）
- 2 挨拶（木村総合政策部長）
- 3 議事（進行：本間会長）

以下の質疑・意見については、▽は委員発言、▼は事務局発言

- (1) 苫小牧市スポーツ推進計画における令和3年度事業実績（見込）及び令和4年度事業予定について

※事務局から説明（資料1参照）

▽中村（誠）委員

パラスポーツイベントは、自分自身も何度か参加をさせてもらっているが、毎回、参加者が同じで、毎回、実施場所も福祉ふれあいセンターである。

苫小牧には、お祭り等も含め大きなイベントがあるので、それらを利用し健常者も目に触れられるような形にして、参加者を増やすことはできないか。

▼畠山課長

パラスポーツについては、平成30年から当課所管で実施している。

現在、車いすバスケットボールを総合体育館の一般開放の中で実施しているが、なるべく

人の目につくような形で推進したいと考えている。

現在のパラスポーツの推進については、主に教室として実施しているが、今後、体験会等の際に、公式ではないが大会形式での取り組みも考えていきたい。

また、将来的には、車いすバスケットボールだけではなく、ボッチャ等も総合体育館の一般開放で実施できればと考えている。

▽中村（誠）委員

小さな競技会や大会等を実施できればと考えていたので、すごく良いことだと思う。

総合体育館の一般開放で車いすバスケットボールを実施されていることが、あまり知られていない。

また、18時以降の利用となると中学生以下が帰る時間になる。大人の場合は、自分達の練習で終わってしまうため、参加人数が増えない。

今後改善していけたら良いと考えている。

▼畠山課長

今後どのような方法でPRができるかを考えながら、周知を図っていきたい。

▽本間会長

第95回日本学生氷上競技選手権大会（インカレ）について、アイスホッケー、フィギュアスケート、スピードスケート、3競技とも受け入れたと認識して良いか。

▼畠山課長

当初の予定では3競技で進めていたが、まだ正式には決まっていない。4月下旬に学連が本市に挨拶に来ることとなっているため、その時に確認をする。

▽本間会長

先日、令和5年度高校総体のテニス、ソフトテニスの実行委員会が設立し、説明があったが、参加人数が3,000人と聞いている。

その中で、同時期に全国高等学校選抜アイスホッケー大会があり、700人から

1,000人位の参加者が苫小牧市に入ってくる。高校総体の実行委員会の中で、時期が重なるため宿泊の方は大丈夫なのかと確認をしたところである。

観光協会（誘致協）からは厳しいという話が出ており、登別等の近郊地域も含め宿泊場所を検討しているとのことであったが、間違いないか。

▼畠山課長

全国各地で高校総体がこれまで実施されているが、どの地域も宿泊場所の確保は厳しい状況と聞いている。

令和5年度高校総体は全国高等学校選抜アイスホッケー大会と開催時期が重なることがわかっており、それでも本市で実施したいということで、現在準備を進めている。

可能な限り本市に宿泊をしてもらいたいが、登別等の近郊地域も視野に入れて、調整しながらうまく進めていきたい。

(2) 「第16回全国高等学校選抜アイスホッケー大会」に関する国立感染症研究所からの最終報告について

※事務局から説明（資料2参照）

▽鈴木委員

令和3年11月に作成された検証報告の見直しの主なポイントの中で、PCR検査又は抗原定量検査の実施とあるが、今年2月に厚生労働省から示されたものでは、感染者の社会復帰に対する検査がいらなくなった。

抗原検査は、過去に感染した人は陽性と出てしまう場合があり、そうなるとチーム内でどこまでが濃厚接触者になるのかの判断が難しい。

国立感染症研究所から示されたものによると、氷上で戦っている選手同士を濃厚接触者とするかは未確定である。釧路で発生したアジアリーグのクラスターでは、どこまでが濃厚接触者なのかといったこともあったが、ベンチ内の選手同士は濃厚接触者となる。

PCR検査の結果が出るまでは感染者として扱うため、最低でも一晩は待機させることになる。

過去の感染者に関しては、抗原検査を行わない方が良いのではないかと。

先日のアジアリーグで、レッドイーグルス北海道で1名陽性者が出たため、PCRの結果が出るまで待機となった。遠征先であればホテルも新しい所に隔離して、選手全員を預けなければならない。地方へ行くとPCR検査ができないため、その期間はホテルに待機させないといけない。感染した人であれば、偽陽性が出るため、過去に感染した人、感染していない人を分けて行った方が良いと思う。

デリケートな問題あり、全員が検査すれば良いというのは、微妙。

アジアリーグのルールはすぐに変えることができないため、今のままやらざるを得ない状況でそのままやっている。感染したことがある人とない人は、分けて抗原検査を行うかを決めた方が良いかもしれない。

▼畠山課長

どのタイミングで、どのような検査が有効なのか、現在検討している。

釧路の事例に対する調査結果によっては、今後指摘事項が変わってくる可能性もあると思う。

検査の考え方も段々と変わってくることが想定されるため、状況を見極めながら基本方針の改訂を行っていきたい。

▽鈴木委員

実行委員会に医療関係者は入っているのか。

▼畠山課長

実行委員会に医療関係者は入っていない。

▽鈴木委員

医療関係者も呼んだ方が良いと思う。

▼柴田室長

今回の事例については、国立感染症研究所と北海道の指導のもとで対策を実施している。大会の基本方針を4月下旬の実行委員会に諮るにあたり、事前に国立感染症研究所、北海道の先生方に確認を行う予定であるため、今のところは実行委員会の中に医療関係者は入っていない。

前段で医療関係者にはしっかりと確認した上で実行委員会に諮る予定である。

▽鈴木委員

詳しい人に聞かないと対応ができないと思う。

▼柴田室長

北海道の先生は、道内のクラスター等を担当しており、詳しい先生だと認識している。

苫小牧保健所にも昨年から関わってもらっているため、そちらとも確認をし対応していきたい。

▽本間会長

北海道アイスホッケー連盟の安全対策委員会もあるので、そういったところの助言も貰うなどして進めてもらいたい。

▽鈴木委員

市外、道外から参加の高校生を隔離する場合、濃厚接触者の定義としてどこまで隔離しなければならないか、抗原検査を受けさせるか、ということもある。PCR検査の体制も整えなければならない。

参加者にはあらかじめ伝えておかないと、後になって濃厚接触者はこの範囲まで、となってしまう。

▼木村部長

アイスホッケーだけではなく、学生スポーツ全般にわたる問題と思っている。

正式な見解として検査をどうするか等、我々もどこを信用して話をすれば良いのかというところで、正式な見解が出るようなことはあるのか。

▽鈴木委員

甲子園では、とりあえず抗原検査を実施しようということになっている。

プロ野球は、感染者が陽性に出ることもあるため、抗原検査は行わずPCR検査だけ行っている。

甲子園もPCR検査にしようという動きはあるが、まだそこまでの手筈が整っていないため、簡易的に行っている。

▽鈴木委員

もう一点。国立感染症研究所からの最終報告の中で、宿泊環境にある、複数チームとの同時期の宿泊制限は、難しいと思うが大丈夫か。

▼畠山課長

正直難しい部分である。最終報告の中で宿泊制限について提言を受けてはいるが、食事の提供ができる宿泊場所が必要であり、宿泊場所にも限りがある。4～5チームが一ヶ所に

宿泊してしまう状況。

その場合は、できる限り選手同士が重ならないようにすることや、他チームの部屋に出入りしない等を徹底してもらう必要があると考える。

▽本間会長

各チームの交わりをなくすような導線分けや徹底した指導をしてもらうことが必要。

試合と試合の間隔を空けて消毒作業をするなどのスケジュールの組み方も必要になると考える。

▽藤岡委員

昨日、第17回大会の競技部会があったが、1日最大4試合の計画で、試合が終了し、チームが退館した後に消毒作業等を行う。試合が終わって次の試合まで2時間位空いているので、そこは大丈夫だと思う。

(3) 苫小牧市スポーツ施設整備計画の進捗状況について

※事務局から説明（資料3参照）

▽阿部委員

総合体育館の建て替えについては、建設場所を市内中心部で検討しているとのことだが、具体的な場所が言える状況であれば教えてほしい。

もう一点、ときわ(旧ときわ)スケートセンターは記載されているとおり、跡地利用検討、解体になると思うが、違った形でのスポーツ施設としての再活用は考えられるものなのか。総合体育館は、様々なスポーツ競技で土日といえば大会づくめであり、1年間ほぼ大会で埋まっている。スケジュールを調整する側も各スポーツ団体と協議をして、断っている状況でもある。

千歳では体育館と武道館がある。苫小牧は武道館がなく、柔道、剣道については総合体育館の練習室で行っている。

そういったことを考えられるのであれば教えてほしい。

▼畠山課長

総合体育館の場所については、本市は東西に長い街であるため、中心部にある方が集まりやすいと考えている。大きい建物になるため、場所は限られてくる。施設規模、場所を含めて市民へのアンケート、ワークショップを開催して意見を伺いながら決めていくことになるかと思う。

ときわ(旧ときわ)スケートセンターについては、PCBの廃棄の関係で令和8年度に処分しなければならない。電気設備が使えなくなり、直すのであれば維持はできるが、大規模改修は実施しないため、施設としての役目は果たしたと考えている。

そのため、今後は跡地の活用について考えていくことになる。

▽本間会長

耐震的には問題ないのか。

▼柴田室長

廃止の方向を打ち出しているので、耐震診断はしていない。

▽本間会長

王子のスケートセンターは耐震問題もあって止めているため、そういったこともあるのかと思った。

▼柴田室長

ときわ(旧ときわ)スケートセンターの老朽化により施設の維持ができなくなることを考えて、新ときわスケートセンターを建設したところであり、ときわ(旧ときわ)スケートセンターを施設として長く使用することは、想定していない。

今後、本市全体の人口減少が進んでいくため、新たな公共施設をということは考えづらい。今ある既存施設をうまく利用していく形になってくると思う。

▽本間会長

(旧ときわの)ボイラー、冷凍機はまだ使えそうか。

▼畠山課長

指定管理者が努力をして、修繕を重ねながら維持している。

▼柴田室長

武道館については、昔から建設の要望はあったが、多くの公共施設の建設は難しいため、新しい総合体育館に武道場としての機能を加えていけると良いかと検討している。

▽藤岡委員

総合体育館の建て替えに関する要望になるが、市内スポーツ団体が事務所の確保に悩んでいる。アイスホッケー連盟、サッカー協会等、事務所を構えているところはあるが、規模の小さい団体では自宅を事務所に行っているところもあると思う。北海道では、広いスペースではないが「北海きたえーる」の中に、各スポーツ団体の事務所を一ヶ所に集めている。

可能であれば、事務所を置けるスペースのある施設を考えてもらいたい。

▼木村部長

総合体育館については、現在まっさらな状態であるため、武道場も含めてこれからどのような機能を据えていくのか、各競技団体の方の意見も聞きながら検討していきたい。

(4) 次回の審議会について

※事務局から説明(次回開催は令和4年8月予定)

4 その他

5 閉会(畠山課長)